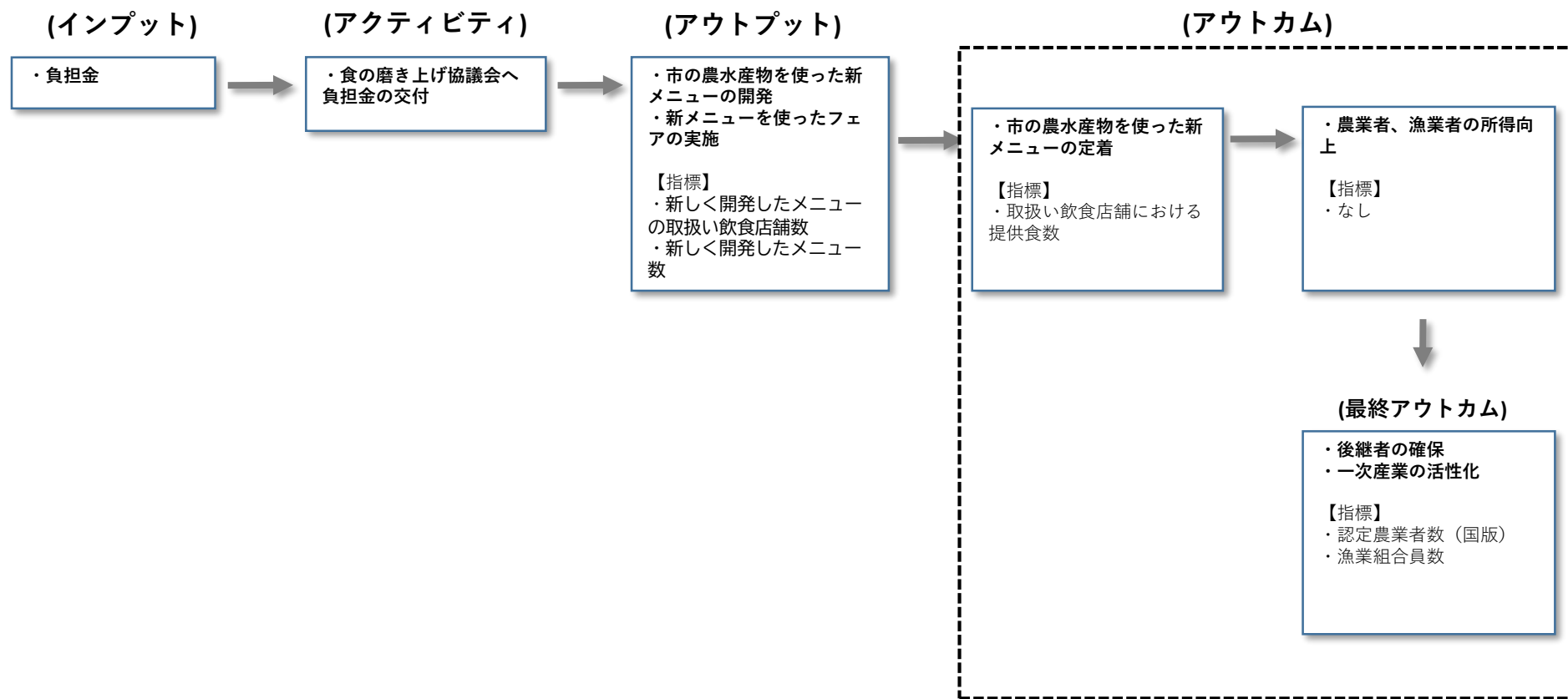


【R 6 年度】重点目標の取組・概要（地元の農水産物を活用した食による観光促進や事業者活性化[農業振興事業]

担当課（内線）	農林水産課 田中（内線2829）	個別目標の方向性	地域経済の軸となる産業・観光の活性化
重点目標	経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	観光資源の磨き上げや新たな観光資源の創出を支援する
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
国勢調査によると本市の一次産業従事者数は、平成22年まで減少傾向にあったが、それ以降は横ばいとなっている。農業（畜産を除く）産出量は府内1位であるが、この間も減少するとともに、遊休農地や耕作放棄地も存在する。一方、漁業についても、海面漁業漁獲量で府内1位であり、豊富な資源が存在する。しかしながら、その認知度などは芳しくなく、資源の活用が課題となっている。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・市内で生産された農水産物が、市内飲食店等で活用・消費されることによって農業者・漁業者の所得向上を図ることにより、後継者の確保と一次産業の活性化を目指す。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・令和4年度 市の農産物（彩営人参）、水産物（黒鯛）を使ったレシピ等を磨き上げ、広報を実施した。 ・令和5年度 水産物（黒鯛）に的を絞り、飲食店が食材を使って創作メニューを作り、広報を実施。 ・流通の面でも漁協、卸売業者等とも連携しながら取り扱ってもらえるように工夫した。 ・食の磨き上げワーキンググループを予算執行の行える協議体とした。 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・令和5年度の黒鯛フェアの実績を踏まえ、飲食店を増やしたり、自走化できるように補助単価を安くしたりして第二弾岸和田黒鯛フェアを実施。 ・地元食材を用いた和食と地中海料理の融合した「泉州和タリアン」コンテストを実施して学生がレシピを考案し、愛彩ランドや飲食店にて販売を実施した。	
R 6 年度の事業費（内訳）			
・負担金6,000千円（一般財源）			
R 7 年度以降の想定事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	
・令和7年度 3,000千円（一般財源） ・令和8年度 3,000千円（一般財源）		・新しく開発したメニューの取扱い飲食店舗数 20件（2026）	
		成果・指標が未達成の場合の取扱い	
		・事業は令和8年度（全国豊かな海づくり大会大阪大会終了）までとする。	

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（地元の農水産物を活用した食による観光促進や事業者活性化〔農業振興事業〕）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 市内で生産された農水産物が、市内飲食店等で活用・消費されることによって農業者・漁業者の所得向上を図ることにより、後継者の確保と一次産業の活性化を目指す。

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 磨き上げたレシピ等を飲食店で取り扱ってもらえるよう広報を実施。
- ・ 流通の面でも農協や漁協、卸売店舗等とも連携しながら取り扱ってもらえるよう量を拡大する。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 第二弾岸和田黒鯛フェア（R 6 年11月）を実施し、漁業者、流通卸売業者、飲食店 7 店舗の協力による加工した黒鯛の流通により、飲食店での創作メニューの提供を実施した。観光振興団体等の協力による広報・周知活動も加わり、期間中に合計2,000食程度を提供することができた。また、黒鯛の消費が増えたことにより、岸和田で取り扱う黒鯛の流通価格の上昇が見られた。
- ・ 地元食材を用いた和食と地中海料理の融合した「泉州和タリアン」コンテストを実施して学生がレシピを考案し、愛彩ランドや飲食店にて販売を実施した。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
○	新しく開発したメニューの取扱い飲食店舗数	店舗	-	20（2026）	7
○	新しく開発したメニュー数	品	-	20（2026）	19

■ R6年度において実施・実現できなかったこと

- フェアに協力する飲食店舗の新たな開拓が2店舗にとどまった。
- 黒鯛販売店舗への登録が進まなかった。

■ 課題分析

- 岸和田鮮魚組合の協力等を得て市内協力飲食店や、販売店舗としてスーパーなどに協力依頼したが、なかなか協力が得られなかった。

■ ロジックモデルの振り返り

- 第二弾岸和田黒鯛フェアの実施により、一時的な黒鯛価格の上昇が見られ、一部漁業者の所得向上につながることでアウトカムの発現が進んでいると思われる。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 令和5年度、令和6年度と岸和田黒鯛フェアを実施したことで、一定の周知が進んだと思われる。今後、黒鯛流通にかかる支援を減らしながら、黒鯛のブランド化とフェアの自走化を目指す。